

教育委員会会議録

令和5年（2023年）11月定例教育委員会会議

開 会 日	令和5年（2023年）11月24日（金）	
開 会 時 間	午後2時00分 ～ 5時10分	
開 会 場 所	SPring熊本花畑町 7階 D会議室 ※一部オンライン開催 オンラインでの出席者については各執務室	
出 席 者	委員 会	遠藤洋路 教育長 小屋松徹彦 委員 西山忠男 委員 苫野一徳 委員 澤栄美 委員 村田慎 委員
	事務 局	田口清行 教育次長 小島雅博 教育次長 中村順浩 総括審議員兼教育総務 部長 須佐美徹 学校教育部長 他
提 出 議 案	議第82号 令和6年度（2024年度）市立学校の管理職（特例任用・暫定再任用）の採用について 議第83号 職員の懲戒処分について	
協 議	(1) 令和6年度当初予算の概要について (2) 「第2期 学校改革！教職員の時間創造プログラム」における実績報告及びプログラムの延長骨子（案）について	
報 告	(1) 次期熊本市生涯学習推進計画の素案について (2) 江南中学校・向山小学校・向山幼稚園における魅力ある学校づくり基本構想について (3) 藤園中学校・城東小学校における魅力ある学校づくり基本構想について (4) 子どもたちの心のケアについて	
自 由 討 議	(1) 教育委員会行政視察について	
署 名	苫野 一徳	
	澤 栄 美	
会議録作成者	教育政策課 玉野あゆみ	

<p>〔開会の宣告〕 遠藤洋路 教育長</p> <p>〔会議の成立〕 遠藤洋路 教育長</p> <p>〔公開の審議〕 遠藤洋路 教育長</p> <p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>令和5年11月定例教育委員会会議を開会いたします。</p> <p>本日は、私の他5人の委員が出席しておりますので、この会議は成立しております。</p> <p>会議録署名人は、苫野委員と澤委員とします。</p> <p>本日の会議の内容につきましては、会議日程のとおりですが、本日の議事のうち、議第82号 令和6年度(2024年度)市立学校の管理職(特例任用・暫定再任用)の採用について、議第83号 職員の懲戒処分については、会議規則第13条第1号「教育委員会に属する職員の任免その他の身分取扱に関する案件」、協議(1) 令和6年度当初予算の概要については、会議規則第13条第2号「教育予算その他議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関する案件」の非公開事由に該当することから、非公開の審議が適当と思います。</p> <p>議第82号、議第83号及び協議(1)につきまして、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いします。</p> <p>(全員挙手)</p> <p>全員賛成により、議第82号、議第83号及び協議(1)は、非公開とします。</p>
<p>日程第1 前回会議録等承認</p> <p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>10月26日開催の令和5年10月定例教育委員会会議録及び11月9日開催の令和5年第10回臨時教育委員会会議録を各委員のお手元に配布しております。これらの会議録を承認することに、ご異議はありませんか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>異議なしと認め、前回会議録等を承認することに決定します。</p>
<p>日程第2 事務局報告の件</p> <p>(1) 事業・行事等報告について</p>	

前回定例会議(R5.10.26)以降の事業・行事報告

今後の予定

日程第5 報告

- ・報告(1)次期熊本市生涯学習推進計画の素案について

《大石雄一 生涯学習課長 報告》

西山忠男 委員

大学との連携ということも書いてありましたけど、具体的にはどういう連携があり得るのでしょうか。

大石雄一 生涯学習課長

今想定しているのが、例えばリカレント教育でありますとか、リスキリングとかも含めて、まずは大学がやろうとしていることなど、情報を把握して、それを発信していくようなことを考えております。

西山忠男 委員

生涯学習という意味では、放送大学が生涯学習に当たると思うんですね。私も放送大学の非常勤講師をしていますけど、来る人は20代から80代まで本当に幅広い年代層の人が来られて非常に熱心に受講されるので、びっくりするぐらいなんです。

ただ放送大学が提供している講義内容は、必ずしも市民一般に興味関心があるようなものばかりではないものですから、その辺をもう少し総合的に公民館の講座等でどういうものが熊本市民に適切なのかということも考えていく必要があるんじゃないかなと思います。

前回、私が高齢者に対するICT教育が大事だという話をしましたけど、今の時代、本当にスマホがないと何もできない、航空券の予約もできないような状況になっていますから、そういったいわゆる少し手取り足取りの公開講座も準備されたらいいんじゃないかなと思います。

大石雄一 生涯学習課長

ご意見ありがとうございます。

ちなみになんですけど、この右下のページ番号で21ページでは、ライフステージに応じた学習内容の充実ということで、放送大学と連携したりリカレント教育情報の発信というところで取組の一つとして掲載をさせていただいております。

村田 禎 委員	すみません、内容と全然関係ないかもしれないんですけど、この足跡のイラストというのはどなたが入れられたんですか。
大石 雄一 生涯学習課長	私が入れました。
村田 禎 委員	この冊子は、サイズはどれぐらいなんですか。
大石 雄一 生涯学習課長	A4になります。
村田 禎 委員	作っていただいて本当に差し出がましいんですけど、一番最後の34ページの99歩の後、100歩目の足跡の圧が強いなと。見開きで、A4で開いたときに多分、私たちはタブレットで拝見したので何も違和感がなかったんですけど、さっきこういう紙で見せていただいたときに、一番最後、すごく大きいので、足跡を気持ち小さくというか、本当に関係ないんですけど、ごめんなさい。それだけです。すみません。
大石 雄一 生涯学習課長	ここの最後の足跡はいろいろ考えたんですけど、ちょっと色を薄くしたほうがいいとか、ダイジェスト版のほうは色を薄めに色が塗れるようにしているんですけど、いろいろ考えた結果、一応このような形でさせていただきたいなということで、幾つものパターンを試したんですけど、局内で一応こういう形ということになりましたので申し訳ないです。
遠藤 洋路 教育長	ダイジェスト版は、さっき見せていただいたのは、私はむしろ薄くて見えないなと思ったんですけど、そんなことはないですか、カラーで見て。あまり見えなくないですか。
村田 禎 委員	大分薄いですね。
大石 雄一 生涯学習課長	はい。
村田 禎 委員	本当にすみません。申し訳ありません。
遠藤 洋路 教育長	この中の足跡は濃い。わざと変えているわけですか、これは。

大石雄一 生涯学習課長

はい。

遠藤洋路 教育長

分かりました。

では、村田委員、よろしいですか、ダイジェスト版は薄くして工夫されているということで。

他にはよろしいですか。

ご発言がなければ、本件は以上といたします。

日程第4 協議

- ・協議(2)「第2期 学校改革！教職員の時間創造プログラム」における実績報告及びプログラムの延長骨子(案)について

《松永直樹 教育改革推進課長 説明》

西山忠男 委員

2ページの当面の目標の正規の勤務時間外の在校時間のところなんですけど、これまで令和2年から4年まで横ばい状態だったというご説明がありましたね。確かにグラフを見るとそうなんですけど、今年に入ってよくなって改善されている。これはどういう取組が効果的だったんでしょうか。

松永直樹 教育改革推進課長

学校の皆様と意見交換をする中では、先ほども申し上げましたように、学校経営重点計画や人事評価の目標に掲げた上で、先生方が個別に面談をして話をしていたというような取組の効果が大きかったのではないかなと感じています。

実際は教頭も時間外の多い方がいらっしゃいますが、各学校において長時間勤務をなされている先生等の面談をやっていかれる中で、業務の改善や工夫と意識の改革が両面進んでいったということが大きかったのではないかとこのように、学校現場との協議の中では整理をしているところです。

西山忠男 委員

ちょっと心配するのは、3年間横ばいだったわけですから、ほとんど工夫は限界に達していたところだと思うんですけど、今年度下がったというのは、無理やり目標を達成するために早く帰って家で仕事をしているという実態がないのか、その点が非常に気になるんですけど、その点は確認しておられますか。

松永直樹 教育改革推進
課長

意見交換の中では、私たちからもそういったこと、サービス残業的なかたちで退勤打刻をした上で残っておられたりとかすることもあるのかというようなことを確認をしたこともあるんですけど、実際、そういったことではなくて、やっぱり休みやすくなったというようなこともありますし、今は各学校現場におきましてかなり細かい取組を様々実践されることで少しずつ時間を削り出しているというようなことがございまして、その意識というのは大分変わったんではないかなと思っています。

その中で第1期にかなり大きな改革を行い、第2期はやや足踏み状態であったんですが、各学校で様々な実践をする中で、事務局に対してシステムの改修を含めて様々な新しい提案が出始めておりますので、そういった状況を踏まえますと、細々取り組んでいく中で成果が出てきているのかなと思っているところです。

西山忠男 委員

意識改革というお話があって、意識改革は非常に大事だと思うんですけど、ただ絶対的な仕事量が減らない限りは、これは減らないですね。ですから、絶対的な仕事量を減らす工夫がまだあるんだろうかというところが非常に気になっているんですけど、いかがでしょうか。

松永直樹 教育改革推進
課長

おっしゃるとおりでして、新しいこともどんどん入ってきている中で、絶対的な仕事量をどう整理していくか。さらにはコロナ禍を過ぎまして、今、地域活動等がどんどん再開をされている中でどうやっていくかということについては、議論を今重ねております。

新しく見直すプログラムの記載を検討する中で、システムの改善、DXの推進というところがありますが、ここで各学校現場から様々なご提案をいただいています。これは新しいシステムを導入するということに加えまして、既存のシステムの改修でかなり効果がありそうなものがございます。さらに今やっている部分でいきますと、押印の廃止も、これは市を挙げて今取り組んでいるんですが、実際に全て廃止できていなかったりしたものが散見されて、それを要らないようにしていただけても相当時間が減ってくる、負担が減ってくるなというもの等が見えてまいりました。今後、2か年ではそういった実際に出てきたものを一つ一つ潰す作業をやっていきたいなと思っていますと

	<p>ころです。</p>
西山忠男 委員	<p>分かりました。</p>
澤栄美 委員	<p>よろしいですか。幾つかありますが、すみません。 1つ目が3ページです。3ページのグラフを見ていて、この月に何の行事があるかなとかいろいろ考えていたんですけど、小中学校とか、高校とかの校種によっても違うと思ったときに、校種によって違いとか差があるかどうかを把握しておられたらそこをお伺いしたいというのが1つ目です。 それから、プログラム延長に伴う骨子ということで、5ページ目から様々変更していくことが書いてあったんですけど、削除された分で6ページの項目2の新しい改正案でいくと上から5行目、家庭訪問というのがなくなっていますよね。それからその次のページの下から3行目のところ、最終退校時刻及び定時退勤日の遵守というところがなくなっていたりしますが、この辺、削除された理由を教えてくださいということが2つ目です。 3つ目がやはり6ページになりますけど、既存システムの改善(教育政策課、健康教育課、教育センター)というのがありますが、この既存システムというのはどんなものなのかを教えてくださいたいというのが3点目。 あと一つあります。すみません。最後のページに今後のスケジュールをさっき説明していただいたんですけど、このプロジェクトメンバーというのは継続して同じ方たちがなられるのか、その全部の職種はどういった職種の方たちなのかを教えてくださいたいと思います。すみません、たくさんあって。</p>
松永直樹 教育改革推進課長	<p>職種ごと、校種ごとのデータあたりも整理をいたしまして、教育委員会会議でお示しをさせていただきたいと思っております。 大まかに申し上げますと、時間外については中学校教員が多いというようなこと、これは部活動等をしているというのが影響をしていると思います。一方、小学校につきましては、部活動が地域移行していったというようなこともございますことから、時間外のそういった傾向、部活動が与える影響が出ているというところは一つございます。 また、休暇の取得推進につきましては、やはり少数職種であ</p>

	<p>りましたり、先生方の人数が少ない幼稚園におきまして少し取得が少ないというような状況にはございますが、ただ、今どの校種、職種におきましても、雰囲気的には取得はしやすいように進んでいるというようなところですよ。こういった職種ごと等のデータにつきまして、1月に整理をさせていただきたいと思っております。</p>
澤栄美 委員	<p>次に、失礼しました、2番目は何でしたか。</p>
松永直樹 教育改革推進課長	<p>すみません、自分でも何番目に何を言ったか。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>失礼しました。家庭訪問の件ですね。</p>
松永直樹 教育改革推進課長	<p>骨子案の修正部分の理由ですかね。</p>
	<p>6ページ、新旧表の家庭訪問の部分を削ったということにつきましては、これは削ったというよりは、他にも保護者の懇談会等での活用がありますので、教育相談等での活用ということで表現を見直したというようなことでございます。</p> <p>最終退勤時刻と定時退勤日の遵守につきましては、前回の教育委員協議会等では削除ということで整理をしまして修正もしていたんですが、これは目標といたしましては全校で最終退校時刻と定期退勤日を設定するというので、これ自体は達成しているんですが、ただそれが全て守られているかというところではございませんので、これは取組として残しまして目標のほうを見直すことで対応したいと考えております。ここは残させていただきたいと思っております。</p> <p>それから、次の既存システムの件でございますが、これは導入以来、当然様々検討をしております、直近でいきますと給食費の公会計化のシステムでありますとか、学校徴収金のシステム等も導入して改善点を様々お寄せいただいております、それを踏まえた対応を行っております。</p> <p>さらに、文書管理関係のシステム、これが正直非常に使いづらいいということ、もう精神的にも時間的にも負担になっているということでご意見をいただいております。これは全市的に使っている統一システムの部分と教育委員会で独自で運用できる部分がないか、そこでうまく調整をして、教育委員会内、特に学校内でうまく文書管理ができるようなシステムがないかと</p>

ということで今協議をしまして、取組ができそうだというところも見えてきていますので、ここについて整理することで、まずは負担感の軽減と時間の縮減というのができるんじゃないかということをお話をしていきます。具体的にここをこう改正してほしい、改修してほしいというご意見も既にいただいているところです。

それから、職員情報システムの改修、これは打刻のシステム改善もそうなんですが、これはこれまでも少しずつやっております、このシステムも全国的に入っているシステムでして、我々でもそうですし、各自治体でパッケージが修正されて大きく変わるということもあるんですけど、他都市においては他のシステムとの連動といいますか、連携をするようなシステムもありまして、そういった可能性が熊本市でも取れないかと考えています。要は基本的には、文書管理や職員情報システムなどの様々なシステムがそれぞれ独立して動いているんですが、それを全体として統合的に運用できるシステムができないかと、そういった意見はいただいています。実際そういうシステムもありますので、その導入が可能であるかを含めて今後議論したいと思っております。既存システムについては以上になります。

最後、プロジェクトメンバーについてですが、学校現場にも当然お入りいただいておりますし、組合の代表の方にもお入りいただいております。さらに少数職種であります、例えば養護教諭の先生にもお入りいただいております。さらには養護教諭部会等も開催をしておりますし、幼稚園の部会ということもやっておりますので、いわゆる小中学校の先生だけでなく、事務の先生等も含めた現場の方々とも議論をしているような状況です。

澤栄美 委員

すみません。なぜ既存システムの改善のところを聞いたかという、逆にそれが入ったことで、さっき少数の職種の年休の取得率が少ないとおっしゃったんですけど、例えば事務職員とか、そういった一部の方に逆に負担がかかっているということもちょっと聞いたことがあるので、そういった方がメンバーとして入っていればもちろん声として上がってくると思うので大丈夫かと思うんですけど、こっち側の人たちはいいけど、こっち側の人が目立たないよという内容にならないようにしていただきたいというのが一つです。

それから、これは私が元養護教諭としてというところからずっとそういうシステムが入ってきたときに危惧をしていたんですが、以前は健康診断票というのは1人ずつの紙ベースだったんですよね。学級健康簿というのがあって、それを夏休みに担任の先生方が書き写すという作業があったんですが、今は入力をするそのまま健康診断票に反映されるので、確かに教諭の先生方の負担は減っているんですけど、教諭の先生方が子どもたちの健康状態を見る機会がないわけですね。それまでは夏休みになってからでも見て、どういう子どもがこうなんだなというのが分かっていた。それとか、例えば測り間違いがあったときに急にこの子は身長が減っているんですけど、おかしくないですかという声があったりしていた。だから一覧表にして必ず見られるようなシステムがないと、教諭はもちろん学習指導が一番の仕事ではありますが、やはり子どもたちの健康面も把握するということは大事な仕事ですので、その辺がどうにかならないかなというのをちょっと思っていたんです。もしかしたら養護教諭の部会で上がってくるかもしれないんですけど、ちょっとそういったことを感じています。

松永直樹 教育改革推進
課長

ご提案ありがとうございます。

今、委員がご指摘されたようなことは直接的なご意見として上がっておりませんので、ぜひ参考にさせていただきたいと思えます。さらに養護教諭の部会で上がりましたのは、これは委員のご指摘のとおりかと思いますが、いろいろなシステムを導入したことで少数職種の負担が逆に増えたとかもしくは取り残されたといえますか、そこまで含んだ処理システムになっていなかったということでのご意見はいただいております。養護教諭の方が入れたデータを様々に多展開するといえますか、負担を減らしつつ、先生方の情報共有を含めてやっていけるようなシステムについてのご意見はいただいておりますので、いただいたご意見を踏まえて何ができるのかというのを今後考えていきたいと思えます。ありがとうございます。

小屋松徹彦 委員

すみません。もう一回図のほうに戻りますけど、45時間を超える教職員の数については、徐々にではありますが、減っております。約半分弱の方がまだこの状況ということで、現状、本当に先ほど課長もおっしゃっていましたが、やるだけのことをやっていて、なかなかこれ以上減りづらいところまで来てい

るのかなというのはこの図から感じるんですね。

でもさらに減らすための努力が必要だと思いますけど、一方、もう一つの当面目標の3つ目に80時間を超える教職員の数、これについては、80時間というのは過労死ラインでしたかね。まずここを超えている方々がまだ140名以上いらっしゃるというのは、これが一番やっぱり問題じゃないかなと思っていて、ここをゼロにするということが喫緊の課題かなと思うんですね。

その45時間と80時間の間が、小さい数字というのがあるのかどうか分かりませんが、ここがどんどん減っていているというか、80時間から45時間に減っているというようなそういった傾向があるのかどうか、あるとすればそれは何が要因なのかとか、そういったことがもし分かれば教えてもらいたい。なければそういったことを少し注目して、今後、対策を考えていく必要があるんじゃないかなと思いました。

松永直樹 教育改革推進
課長

今ご指摘の点については十分に分析ができていない部分もございまして、改めてプロジェクトメンバーを含めまして議論してみたいと思います。

一方、全体的な平均値が減っているというのは間違いのないところでして、昨年度から比較しましても先ほど申し上げましたように2時間減っているということで、これも先ほど来申し上げた細かな積み上げかというふうに思いますが、重ねて80時間を超えている方々とそういった平均が減っていらっしゃる方々で何が違うのかというのは、人数も140人ということで大分減ってきていますので、個別に追える部分も正直出てきたかなと思っておりますので、そこを含めて今後検証してまいりたいと思います。

1点、申し訳ございません。資料の修正をさせていただきたいと思います。当面の目標の2ページ目のグラフ下の記載なんですが、黒ポツの2つ目になります。令和4年9月末と比較しますと人数にして約90人と記載をしておりますが、申し訳ございません、これは人数にして約50人でございます。190人から140人ということで約50人減っております。割合としては1ポイントの減少ということで修正をさせていただきたいと思います。申し訳ございません。よろしく願いいたします。

小屋松徹彦 委員

よく分かりました。

やはりこの80時間をゼロにするという、これが一番目標だと思いますので、早期にこれがゼロになることを頑張りましょう。

苫野一徳 委員

教育改革推進課をはじめ、皆さんが本気でこの時間創造プログラムに取り組んでくださって着実に成果が出ているというのは本当にありがたいなと思っております。

素朴な質問なんですけど、令和7年でこの数値目標を達成できるかということ、なかなかそこは、まだ今の現状では、このグラフの上がり方を見ると難しいような気がしまして、そうした場合に、これはこの目標が達成できるまで何が何でもやり続けるぞと、そういうご覚悟で続けられるのか、そのあたりが素朴な疑問なんですけど、お聞かせいただきたいなと思います。

松永直樹 教育改革推進課長

私が現職に着任する前にプログラムをつくったところですが、他都市におきましては、例えば先ほどもありました年間360時間の達成目標を、平均で360時間を超えない目標設定をしていたり、ゼロにならない目標設定をしているような都市が多いところ、熊本市においてはゼロにするんだという強い意欲を持ってこのプログラムをつくったと理解をしております。現在、プロジェクトメンバーを含め、ここはすぐに正直ゼロになるというのは難しいとは理解しつつも、ここを目指してやるということも間違いなくやりたいというところです。

特にこれも小屋松委員がおっしゃったとおりですが、80時間を超える教職員をゼロ人というのは、できるだけ早急に実現をしたいと思っています。

さらに年休の平均16日以上なんですけど、これは本当に具体的に目標達成が見えてまいりましたので、まずはしっかり取り組んで目標達成をしたいと思っています。では、目標達成後、この扱いをどうするかというのをまたご議論いただきたいと思うんですが、ここも次は全職員16日以上にするんだという、平均じゃなくて、するんだという目標を掲げるのかどうかを含めてまた議論をし、しっかりと取組を進めていきたいと思っています。

苫野一徳 委員

ありがとうございます。

非常に心強いお言葉をいただいたなと思いました。数値目標

	<p>を掲げた以上、これをやり切るとするのがやはり責任かと思えますので、本当に大事なお言葉をいただけたかなと思いました。ありがとうございます。</p>
西山忠男 委員	<p>先ほどの小屋松委員の意見に全く同感なんですけど、この1か月80時間を超える教職員というのはほとんど教頭先生ですか。</p>
松永直樹 教育改革推進課長	<p>教頭先生は多々ございますが、全てということではありませんで、半分以下というような状況です。ですから、他職種の方も多いということでございます。</p>
西山忠男 委員	<p>半分以下といっても半分ぐらいはいるわけですよ。だから職種によってどうしても長時間労働になっている職種があるというのは多分間違いないと思うんですね。ですから、例えば教頭先生の職務内容をもう少し点検・整理して、ここまでは教頭がやるべきで、ここからは他の人たちに分担してもらうべき職務であると明確に定めないと、教頭先生、人によっては何でも自分がやらなきゃいけないと思って働き過ぎてしまうということが起こっているんじゃないかという気がするんですけど、いかがでしょうか。</p>
松永直樹 教育改革推進課長	<p>おっしゃるとおりの部分がございます、教頭部会でもそのような意見が出ておりますので、教頭業務の在り方の整理は非常に大きな取組項目ですし、何らか整理をして早急に出したいと思っています。</p> <p>さらに、やはり初任の教頭先生の時間外が非常に増えがちと申しますか、実際に非常に多いというようなことがございます。ですから、経験を積んだ教頭先生のノウハウをどう新任の先生方に伝えていくかということで、これも以前に西山委員からご提案もいただいているんですが、横のつながりをどう強化していくかということ、今その中の取組でいきますと、部会で議論するということに加えて、先生方が意見交換の場、ネット上のコミュニティをおつくりでいらっしゃいますので、それを広げると。また、実務に即した意見交換と研修、こういったものをやればさらに時間外が減っていくんじゃないかというようなご意見を現場からいただいておりますので、そういった取組を一つ一つやっていきたいと考えているところです。</p>

<p>西山忠男 委員</p>	<p>周りの教職員の理解も重要だと思うんですね。やっぱり周りの教職員から、あなた教頭なんだろうと、教頭がやるのが当たり前だろうというような目で見られると教頭先生はどうしても自分でやらなきゃいけないとってしまいますよね。教頭で高い給与をもらっているんだから、それぐらいやって当たり前じゃないかというふうに見ている教職員もいると思うんですね。</p> <p>ですから、そのあたりは全員が協力して仕事内容を減らして、こういった80時間残業を超えるようなことのないようにすることが、学校全体として、健康な働き方につながるんだという共通理解を得るのが大事じゃないかなと思います。</p>
<p>松永直樹 教育改革推進課長</p>	<p>いただいたご意見は、プロジェクト会議、部会を含めて共有しまして議論をしたいと思います。</p> <p>通常、行政部門で一番時間外をしているのが課長とか副課長かという決してそういうことではありませんので、ある意味、学校での特殊な状況でもあるかなと思っていますので、学校現場の職種がどうなのかということを含めてしっかりご理解をいただくことで、教頭先生の業務の在り方というのも少し見直していきたいと思います。</p>
<p>苫野一徳 委員</p>	<p>予算的措置が必要になってくることは思うんですけど、教頭補佐とか、そういったものというのは、今あるんですか。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>教頭補佐という職はないです。</p>
<p>苫野一徳 委員</p>	<p>ないんですね。そういったことは可能なものなんでしょうか。</p>
<p>上村清敬 教職員課長</p>	<p>おっしゃられるようなポジションとしては主幹教諭というポストがございますので、学校全体を見るという意味では主幹教諭がおっしゃったのにちょうど適しているポストかと思います。</p>
<p>苫野一徳 委員</p>	<p>新たにそういった補佐的なお仕事をしてくださる方が学校現場に入れなかなというお尋ねというか、提案というか、させていたきたいなと思ったんですけど、それはどんなものなんでしょうか。</p>

遠藤洋路 教育長	<p>教頭補佐みたいなものを置いたほうがいいんじゃないかという、どこかで見たような気がするんですけど、どこで見たんでしょうかね。最近そういうのを何かで見たような気はしますけど。</p>
苫野一徳 委員	<p>民間でお知り合いが教頭補佐をしているとか、そういったことがあったりして、非常に教頭先生にとってもありがたいことだったというようなことはお聞きしたことがあるんですよ。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。大規模校はそもそも教頭が2人いますけど、補佐というポジションに入っている人はいなくて、今、教職員課長からあったように主幹教諭ですよ。だけどそれはそれで別の自分の仕事もちろんあって、教頭の補佐もということなので、教頭の補佐をする専門の職員を置いたらどうかというご提案かなというふうに今思うので、はい。それが教頭の補佐がいいのか、どういう状況がいいのかというのはあるかもしれませんが、そうですね。やっぱり人を増やすしかないんじゃないかということの中では、どういう職を担う人を増やすのがいいのか、そういう検討が必要かなと思います。</p>
澤栄美 委員	<p>多分事務处理的なことは学校の校務の支援に来る方でもできると思うんですけど、教頭の仕事の場合はやはり守秘義務に関わるようなことも多く、なかなか他の人では、一般の方ではできない部分もあるのかなと思ったときに、教育委員会にも教頭をご経験の方もたくさんおられますし、ここは何かできるんじゃないかというのを検討していただくといいのかなと思いました。</p> <p>恐らく教頭先生方で一番大変なのは、突然入ってくる仕事なんだと思うんですよ。これは教頭先生に言っておけば何とかなるだろうと。それから、涉外ですね。交渉の渉と外の涉外です。地域の方が来られたとか、保護者の方が来られたとか、そういったところをどうやって減らしていくのかという、対応していくのかというのを検討されるといいんじゃないかなと思います。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>ありがとうございます。 教頭補佐というのを置くとしても、外部の人とか、非常勤の</p>

	<p>人とかいうよりは、正規の職員で教頭業務をまさに課長と課長補佐みたいな感じで補佐できる人がいるといいということだとは思うんですね。自分の手伝いとかいうイメージではなくてとは思います。</p>
苫野一徳 委員	<p>今検索しましたら、文部科学省が副校長・教頭マネジメント支援員制度を創設する方針を固めた、自治体が支援員を配置した場合、人件費の3分の1を国が補助する方向で調整しており、2024年度概算要求に関連経費を盛り込むとあります。もうまくいけば。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>文科省の概算要求で見たんですかね。</p>
苫野一徳 委員	<p>うまくいけばそういったことも可能なのかなということを感じました。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>でしたら、そういうものが国のほうでできるのであれば、当然活用を考えていきたいというふうに思います。</p>
澤栄美 委員	<p>それに関連して私もしっかり見たわけじゃないんですが、いろんなルートから見たんですけど、教頭の話とは違いますけど、部活動の補助に関しても、これまで取組をしてきた市町村教委の部活動に関して補助金を出すというようなニュースを見たような気がするので、部活動に関してもそういった流れがあるのであれば、大いに今の教頭先生もそうですけど、活用していただければいいですねと思いました。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>それはあれですか。部活動の支援員じゃなくて、別の。</p>
澤栄美 委員	<p>ちょっと私もあやふやな情報ですけど、文部科学省がそういう補助金を出すという、そういう流れだったような気がします。ちゃんと見てから言えばよかったんですけど、すみません。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。 国の予算のほうは、また来年度の概算要求が出ていますが、最終的な予算措置のほうを見ながら熊本市でも活用できるものはしていきたいというふうに思います。</p>

村田 稔 委員

自分が学校でお会いしてきた教頭先生だけでなく、例えばいろんなお話を聞いているんですけど、あるクラスの一定の子が例えば教室から出てしまう特性があるとか、そういうとき、養護教諭の先生は保健室の対応もあってなかなかその子たちの対応ができなくて、しかも何人かいたりするときにずっと教頭先生が対応されているとお聞きしたことがあります。それから例えば特別支援学級の生徒さんの対応についても、特別支援学級の先生たちは他の子たちの対応もあるので、それにも教頭先生がフォローに行かれる。プラスこどものことやそうでないことまで、保護者がものすごく長い時間電話をかけてくるとか、突然学校に夕方、もうすぐ終わる時間の頃に保護者が訪問されて、そこからまた長く対応しなきゃいけないとか、それも教頭先生がされているという、事務的なことというよりそういう突発的なものというのをさっきおっしゃっていて、確かにそれが大変そうだったなと思いながら聞いておりました。

遠藤洋路 教育長

実際どういう業務で時間外が発生しているのかというところ、これまでも十分検討はされているとは思いますが、ここまで百四十数人までいけば、一人一人、さっき課長も言っていましたけど、見てそれぞれの事情、それぞれの働き方が改善できる部分があると思いますので、これまで以上によりきめ細かく対応していくようにしたいというふうに思います。

他にご意見、ご質問はありますか。

ご発言がなければ、本件は以上といたします。

日程第5 報告

- ・報告(2) 江南中学校・向山小学校・向山幼稚園における魅力ある学校づくり基本構想について
- ・報告(3) 藤園中学校・城東小学校における魅力ある学校づくり基本構想について

《松永直樹 教育改革推進課長 報告》

西山忠男 委員

藤園中と城東小についてお尋ねいたしますが、先日、村田委員と一緒に城東小の研究授業に参加したときにちょっと驚いたんですけど、城東小学校はかなり大きな学校なんですけど、空き教室が非常に目立ったんですね。この人数を見ても1学

年40人しかいないと、240人ですからね。6で割ると40人でしょう。藤園中のほうは310人ですから、3で割ると103人ぐらいになりますよね。ということは、ものすごく少子化が進んでいる地区だということになりますよね。江南中と向山小は、1学年当たり中学が83人で、小学校が76人でそんなに変わらないからこれまでどおりの計画でいいかなと思うんですけど、藤園中、城東小のほうはそういうこどもの数の減少を見越した計画にしないとちょっと危ないんじゃないかなという気がするんですけど、その点はいかがなんでしょうか。

松永直樹 教育改革推進課長

ご意見のとおり中心市街地の学校については、小規模化が進んでいる学校がございます。本荘小を含めてございますので、そういったものをどのように見越して施設整備を行っていくかというのは、確かにご指摘のとおりだと思います。検討の中でそこはしっかりと議論させていただきまして、また教育委員会会議でのご協議の中でもご意見をいただきたいと思います。ありがとうございます。

村田慎 委員

江南中の報告2の1ページ目の一番下、4項目めの特色1について、知識的に素人なので教えていただきたいんですけど、教育課程編成の自由度が高いというのはどういう意味なのかを教えていただきたいなと思います。

福田衣都子 指導課長

義務教育学校、小中一貫もそうですけど、新しい教科をつくるなど編成が自由にできるということになります。文科省の示したとおりではなく、新しい考え方で教科を設定することができるということです。

遠藤洋路 教育長

よろしいですか。
他にご意見、ご質問はありますか。
ご発言がなければ、本件は以上といたします。

日程第5 報告

・報告(4)子どもたちの心のケアについて

《吉里麻紀 総合支援課長 報告》

澤栄美 委員

毎回、熊本地震と、それからコロナ関連とその他の要因ということで報告していただいています。以前、私の記憶違いでなければ、熊本地震に関わるものは国からの予算措置があっていたのですが、それがなくなったんですかね。そこはまたお聞かせいただきたいんですけど、9名ということでもかなり少なくなってきているんですが、地震から7年ですかね、やはりこれは地震が原因だというのはっきりとした理由で急に上がってきているのかということをお伺いしたいと思います。

吉里麻紀 総合支援課長

まず、国からの補助については、今のところ、まだ10分の10の補助をいただいております。いつまでかということは、まだ国のほうからも言われていないところです。

地震によるカウンセリングが必要な子どもたちにつきましては、個別の個人票というものを出示していただいております。もちろんいろんな複合的な要因はあるのかと思いますが、やはり地震に関する情報を見聞きしたときに表情とか、そういったものが変わるということであったりとか、地震の後にご家族の関係や、友達の関係が変わったということで、それ以降、心身の不調を引き続き訴えているような場合であったりとか、個票に地震が原因であるというふうに学校のほうでは判断されているような状況であります。

澤栄美 委員

新規が9名ということは、新しく振り返ってみればそういうことなんだなというようなことで判断されているということですよ。

吉里麻紀 総合支援課長

そうですね。はい。新たな揺れがあったときに、また改めて不安に感じたりというような子どもさんもおられるように聞いております。

澤栄美 委員

分かりました。ありがとうございます。

遠藤洋路 教育長

他にご意見、ご質問はありますか。
ご発言がなければ、本件は以上といたします。

日程第6 自由討議

・(1)教育委員会行政視察について

《福田衣都子 指導課長 説明》

遠藤洋路 教育長

では、ただいまから討議に入ります。時間は30分程度を目安といたします。

どなたからでも結構です。ご発言がありましたらお願いいたします。

西山忠男 委員

単なる感想でしかありませんけど、私は石巻の大川小学校に非常に興味があったんですね。ご存じのとおり裁判にまでなつてたくさん本も出ていますが、実際に行くとなりますと、大川小学校はとてもへんぴなところであつて、簡単に行ける場所ではなかつたので、門脇小学校に案内していただいたということだったんです。門脇小学校で石巻市の地図を見せてもらつて、大川小学校はどこですかと聞いて示してもらつた場所を見て、その周囲の地形を見て、それから避難した場所はどこですかと、ここですと言われて、それが川筋のちょっとした小高い場所だったというのが分かつて、その地形を見たときにここに避難するのは絶対にあり得ないなという印象を持ったんですね。少しでも地学を知っている人間ならこんなところに避難するわけがないと思ひました。

そういう意味で我田引水になるんですけど、地学教育の大切さというのを改めて思ひ知つたわけなんですね。そういう意味で非常に印象が深かつたということがございました。感想です。

遠藤洋路 教育長

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

澤栄美 委員

最初に、石巻市の教育委員会で石巻市全体の防災教育についてお話を伺つたんですけど、やはり被害がかなり大きかつたということで、通常の地域でこれだけやれるかなということ、そこまではなかなか難しいかなと思つたときに、以前も教育委員会会議のときにお話をしたんですけど、学校での心肺蘇生の訓練というのがあるんですけど、その訓練のときに心肺蘇生法を学ぶというのが大体大方の学校なんです。それはすごく大事なこ

となんですけど、集団で何か起きたときにどうするか、避難訓練も含めて、その内容というのは案外少ないような気がするんですよ。避難訓練はもちろん集団でどこに避難するかなんですけど、心肺蘇生とかの場合に、例えば熱中症が一遍に起きたときとか、あるいは食中毒でどんどん倒れていくとか、そういった集団で何か起きたときの訓練というのも学校の中で入れていったらいいよねというのを改めて思いました。なかなか熊本で石巻と同じような取組ができるかという難しいなという感想を持ったので、熊本で改めて何かできるかなと考えたときに、心肺蘇生法の訓練の中身をもう少し変えていくとか、この間、ちょっと耳にした部分で、予定して避難訓練をやるんじゃないかと、みんなが例えば昼休みにばらばらになっているときに抜き打ちで避難訓練をやるか、そういった実際に起きたときに本当に役立つような訓練というのは、少なくとも熊本市でもやっていけるんじゃないかなという感想を持ちました。

遠藤洋路 教育長

年間12回ということは夏休みとかも考えたら毎月1回以上ですよ。確かにここまではなかなか大変かなと思いますけど、もう少し強化していかなくちゃいけないんだなということとはよく分かりましたし、回数だけじゃなくて、今、澤委員が言っていたように、内容的にも毎回同じことというよりは少しずつ変えながらやっていく必要があるんだなというのは思いましたね。石巻はすごくいろんな場面の設定をして、実際の場面を想定しながらやっているということで、そこはとても勉強になるなと思ったところです。

その辺はどうですか。事務局から何かコメントはありますか。

吉田康誠 健康教育課長

実際に役立つような訓練をということで、実際に学校のほうでも避難経路についてわざと閉じて、避難経路をあらかじめ定めた経路が使えなかった場合にどういう経路を取るかとか、そういった工夫をした訓練を実際にやっている学校もあるのですが、熱中症が一遍に起きたときにどういった対応をするかであるとか、そういったことを想定してまでの訓練というのは実際行われていないような現状です。今、委員からご提案があったような熱中症が一遍に起きたときに、それぞれがどういった役割を持って動くべきか、そういったことを想定した訓練というのは研修等の機会に学校に提示をしていきたいと考えます。

遠藤洋路 教育長

分かりました。

ここにも書いてありますけど、登下校時とか、部活動時とか、そういう訓練もあまりしていないと思いますので、その辺も考えていく必要はあるのかなというふうには思います。

吉田康誠 健康教育課長

部活動時を想定した訓練とか、そういった通学の時間を想定した訓練というのは、あまりこちらにも報告が上がっておりませんので、実際に学校のほうでも実施をされているところは少なからうというふうに想像します。

そこら辺についても、先日も北朝鮮からのミサイルに関するJ - A L E R Tが鳴ったところですので、そういったことも十分に想定されることから、通学時の緊急時どういった行動を取るべきか、そういったことも含めて訓練する必要があるということをお学校のほうには申し伝えていきたいと考えます。

澤栄美 委員

今紹介のあったような経路を閉じてやってみるとか工夫しているところもあるわけですね。そういうのは安全教育主任会とか、例えば心肺蘇生法であったら養護教諭とか保健主事が担当していることが多いと思いますが、そういった会で共有するような工夫をしていただくと、そういったことが広がっていくかなと思うので、よろしくをお願いします。

小屋松徹彦 委員

まず、石巻市の防災教育の中で私が一番印象に残ったのは、クロスロードというのを、要するに災害時のいろんな対応をクイズ形式でカードにしてあってイエスかノーかで判断していくと、そういったものを子どもたちに持たせてあるというのは非常にいいなと思いました。実際にリアルの防災活動をするというのはなかなか回数的には難しいでしょうけど、疑似体験みたいにしてこうやってカードで持っているところもあるのかなと思ひまして、このクロスロードのカードというのは非常に有効かなというふうに思ひました。

それから2つの小学校、門脇小学校と熊町小学校でしたか、2つとも被災はしておりますけど、一方は、全く学校のていをはなしていないほどに壊れてしまって、もう一つは学校のていはそのまま残っているけど、人が全くなかったという、非常に2つとも大変な状況でした。その中で門脇小学校の中のものが全部残っていなかったというのが、先ほど課長もおっしゃっていましたが、津波による火災の影響で燃えてしまったんだ

という、これを聞いたときに熊本の場合の防災というときに我々は垂直避難しか考えていないところがあるなと思ひまして、熊本の場合、どれほど火災につながるような状況が想定されるかは別ですけど、別の視点としてそういった視点もあるんだなというのを聞かせていただきました。

それからもう一点は、最後のゆめの森の学校ですけど、ここに最終的にメモを残してきましたけど、うちの孫たちも通わせたいなという学校ですねと書いてきましたけど、非常にこういう学校があったらいいなということをひしひしと感じさせていただきました。

その中でグループに分かれて討論したときに、私がいたグループに新採2年目の若いまだ教員の方がいらっしゃって、社会科とおっしゃってましたかね。この方が、この学校は先生のことをデザイナーと呼ぶんですよね。その先生はどうしたかという、学習指導要領、これに基づいて押さえないといけないことはきちんと押さえるけど、それをぐっと凝縮して何をしたかという、授業時数に余分な部分というとおかしいけど、何か他のことができる時間をつくり出すということをやっているって、新採2年目ですけど、その時間で何をするかという教科横断的な活動やっていくという、そういうことをこの時間にやるんだということで、非常にそこら辺を明確に目標を持って、そういうことを2年目の先生がやっているということに非常に驚きまして、まだまだ少数のこどもしかいない学校だからできることかなというふうにも思いましたけど、でも逆に言えばそういうこともできるんだなということを考えると、別に35人学級であっても先生たちがどう考えるかによってはそういったデザインをしてといいますかね、こういった観点も考える余地があるんだなということを思いました。

西山忠男 委員

小屋松委員の2番目のご指摘は、非常に重要なご指摘だと思うんですね。熊本地震の幸いだった点は都市火災が発生しなかったことなんですけど、これは単に幸運だったにすぎなくて、次に大きな地震が起きたときに都市火災が発生するかもしれないですね。そうするとあらかじめ考えていた避難ルートが使えないということも当然起こり得ると思うんです。

ですから、各学校においてはそういうこともあり得るということ念頭に置いて、複数の避難経路を想定しておくべきではないかなというふうには私は思います。

澤栄美 委員

さっき小屋松委員がおっしゃったクロスロードなんですけど、私、現役時代に保健の授業で使ったことがあって、今、くまもとSDGs推進財団の理事長の徳永伸介さんという方が消防士をされていたときに、今検索の途中だったんですけど、多分くまもとクロスロード研究会というのがあって、そこで活動されていて紹介されたので、実際に使ったことがあります。もともとは京都大学がつくっていて一つが結構高いんですよね、そういう特許みたいなものを持っておられて。石巻の場合は、お尋ねしたらその許可を得て石巻バージョンをつくっているということで、なかなか全校にというのは難しいと思うんですけど、やり方を覚えると子どもたちが意見を交換するためのもので、イエスが正解で、ノーが正解じゃないとかそういうものじゃなくて、イエスの人もいればノーの人もいる、その中でみんなの意見を聞いて行動できるような力をつけるというようなものなので、熊本市でももし取り入れられるならば保健の教科書のけがの防止、小学校でのけがの防止の中に災害を扱う部分があったりしますので、そういったところを利用しながら常にやっていくと、子どもたちに自分たちで判断する力というのがついていくかなと思うので、私も推奨したいなと思いました。

遠藤洋路 教育長

ありがとうございます。

それはやるとしたらどういうところがやるんでしょうね、教育委員会だったら。指導課ですかね、教育センターですかね。健康教育課ですかね。

澤栄美 委員

指導課か健康教育課か、そのあたりだと思います。

遠藤洋路 教育長

では、みんなで検討して、せっかく資料も頂いてきたので、参考にして検討しましょう。

あと、小屋松委員がさっきおっしゃった一人一人の授業のデザインは、本当に何人ぐらいまでできるのかなというのは見ながら感じたところではありますけど、小規模の学校も熊本市もありますから、そういうところでは取り入れられるんだろうと思います。大きな規模でもそれはそういうやり方があるのかなというふうには思います。

苫野一徳 委員

ゆめの森にはずっとぜひ視察でいきたいというふうにお話をしていたところ、今回このようなかたちで実現をさせていただいて本当にありがたいなと思いました。改めてありがとうございました。

それこそ教育長もあのときに、こんなすてきなゆめの森、熊本市もこれをはるかに超える学校をつくりますとおっしゃいましたので、ますます我々もやる気が出たなというところなんですけど、まさに天明校区もそうですし、今日ご報告いただいた藤園中と城東小の構想、江南中、向山小、向山幼稚園の構想がありますので、本当にここで学んできたものはどんどん生かしたいなというふうに思いました。

とても印象的だったのが、先生方がとにかく生き生きしたというのがすごく楽しそうだったですね。こういった新しい学校をつくっていく、楽しくて仕方ないというあの毛穴から出てくるようなあの感じが、結局のところはあれが一番大事なんだろうなというふうに思いました。デザインをどうしていくとか、学びの環境をどうするかとか、そういった具体的なことも大事なんですけど、そのわくわく感というものがあれば、おのずと実行していく部分もあるなというのはとても感じましたね。それが一番私は響いたものでした。

それで、ついこの前も総合学習で大変有名な伊那市立伊那小学校に私お邪魔しまして、研究発表会だったんですけど、ゆめの森の先生方は、去年もそこで一緒したんですけど、今年も10人弱ぐらいでしたかね、いらして、とにかく全国あちこちそういった非常に本質的な実践しているところをとにかく先生方がいっぱい見て交流して、もう大体つながっているという先生方が、校長、教頭先生が大体そういった注目されるような学校だったり、みんなつながっているという感じがあって、これも一つ大事だなと思いましたね。

つまりこういう実践があるんだと、とても楽しいな、わくわくするなという感じを多分先生方がみんなある程度肌で共有しているところがあるから、ああいったことができるのかなというふうに感じたので、可能であればこれもずっとやっていることなんですけど、せっかくのこの天明校区等々で新しいチャレンジに向かっていきますので、本市の先生方がそういったいろんなところを実際に肌で感じるというのは全然違うと思うんですね。そういった機会を増やしていけたらいいなと。そのあたりもお金のかかることではありますけど、ぜひ実現して

<p>西山忠男 委員</p>	<p>いったらいいなということを感じました。</p> <p>　　苫野委員のご指摘された教員の人間関係というのは非常に印象的だったですね。教員同士が先生と呼ばないんですよね。一般教員が副校長の先生をさんづけで呼んでいるし、お互い同士もさんとか君で、しかも下の名前と呼んでいたりするんですよね。だからものすごくフレンドリーな人間関係ができていて自由に発言ができていますと、それがすばらしいなと私は思いました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>　　苫野委員が今おっしゃったいろんなところの先生方がつながっているという、苫野委員もまさに全国でつながっている中の一人でしょうから、ぜひこれからいろんなところを見に行くときに一緒に見に行く人を声かけて、熊本市の先生たちを連れてっていただけるといいんじゃないかなと思いました。お金はないけど、自分で行きたい人もいるかもしれません。手挙げて行く人、お金もそういうそれぞれ研修、研究授業のお金を、使えるものがあるとは思いますが、毎回自腹でということはないんでしょうけど、せっかくそういう機会があれば、苫野委員だけじゃなくて、ぜひ他の人にも行っていただければありがたいなと思います。</p>
<p>苫野一徳 委員</p>	<p>　　ありがとうございます。喜んでぜひ先生方と一緒にしたいなと思っていますので、視察にご一緒するとか、いろんな機会、ぜひ共有させていただきたいと思います。できればそういった研修費の確保ができていくと、なおよいかなというふうに思っております。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>　　そうですね。それは、また予算要求を考えましょうか。いくらかくらいかかるんでしょうね、伊那小に行くのに。</p> <p>　　いろんな名目で予算も要求もできると思いますので、考えておきましょう。</p>
<p>澤栄美 委員</p>	<p>　　今の話を聞いていて思ったんですけど、私も自分が行ったことがないので分かりませんが、短期研修ですか、1週間ぐらい研修に行ける制度がありますよね。その研修で1回、養護教諭がそういうチャンスももらったので、紹介してくださいと言ってきたことがあり、まさに去年行った広島为学校、福山の学校</p>

遠藤洋路 教育長

をご紹介したんですけど、自分で探して行くようになっているので、そういう中に今度の天明に役立つような学校を入れるとか、そういうふうに紹介するといいいんじゃないかなと思ったのが1つと、天明でどういう教育をしていくかというときのイメージを湧かせるためにも、天明で働きたいという先生を早めに募集して、その先生たちがまた見学に行って、デザインをしていくというのもありかなというふうに今お話を聞いていて思いました。

働きたい人を募集するというのは確かにいいですね、やる気のある人が集まって。視察というか、教育改革推進課なんていつの間にかいろんなところに行っていたりするので、お金があるところにはあるんじゃないかなという気もしているので、うまく活用すれば視察に行くお金もあるのかなというふうに思います。

どういう人になるか、天明もそうですけど、大事だと思しますので、募集するというのも一つですね。あるかもしれませんね。ゆめの森も当然そこに行きたい人が来ているという、そういうところも苫野委員がおっしゃった皆さんやる気があるという原因の一つでしょうからね。

村田槇 委員

感想なんですけど、まず門脇小学校と熊町小学校の視察をさせていただいて、ちょうど震災の日というのが金曜日で、この後楽しい週末が待っていて、週明けは当たり前のようにいつもどおりの月曜日に来るはずだった予定が黒板に書いてあったりとかして、その光景というのはずっと今も心に刺さり続けます。何気なく当たり前を感じているささやかな幸せというのは決して当たり前ではないというのを思い知らされた時間でした。

防災の教育についてなんですけど、まず石巻では、資料にもあるんですけど、こどもの本気さに感動したというのは私もまさしくそのとおりで、自分たちが防災マップを作って、それを地域の方々に伝えたり、共有をしたりすることで地域とのつながりもできて、それがいざというときの連携にもつながると。例えば、自分のこどもが今日は金曜日なので来週の予定表とかを持って帰ってきますけど、その中に避難訓練とか、訓練と書いてあったときにちゃんと真面目にやってきなさいよという程度でしか関心を持っていなかったことにもものすごく恥ずかしい

気持ちになりました。もしもの突然というのがやってくるという意識の持ち方が家庭側でも到底足りていなかったかなと思いました。

ものすごく細やかにいろんな想定をされていて、澤先生もおっしゃいましたけど、授業中ではないかもしれないですし、登下校中でちょうどいい場所が把握できない時間帯かもしれないし、あるいはもしかしたら給食の準備中で火を使っているかもしれないと。そういう想定の上に、起こりうるたくさんの可能性をふだんから予測して判断して回避できるトレーニングというのをすごく徹底されていて、自分たちの中でも日頃から心のどこかには必ず置いておかないといけないなというふうに思いました。

それからゆめの森なんですけど、こちらでは、足を一步踏み入れた瞬間に学校に子どもを送り出している親として固定観念が本当にひっくり返るほどの衝撃を受けました。設計に携わった方とかなりいろんな議論を通してようやくたどり着いたというふうにおっしゃっていましたが、まず教室も決められた四角い教室では全然ないし、それぞれのクラスの名前、教室の名前が子どもたちが考えたオノマトペでできていて、その中でも対話の教室が「るんるん」と書いてあったんですね。それにも衝撃で。いろんな子どもたちがいろんな教室でそれぞれ楽しそうに活動されているのを見たんですけど、ゆめの森のほうでは、まず子どもたちのために大人が何をやるかというのをものすごく徹底した、ずっと挑み続けている姿に大人の本気の結晶というのを見せていただいたと思います。また、私がその中でもすばらしいなと思ったのは、演劇教育というのをされていて、一つの演劇をみんなで作って上げていく、その過程で協働すること、ソウゾウすること、ソウゾウは考えるも作り出すも両方ですね。また、人前で自分を表現すること、それを見てもらうこと、あるいは別の人たちの表現を自分たちで見ることに繋がって行って、本当に教育の中で必要なもの、子どもに持ってほしいものというのがそこに全てぎゅっと詰まっているようなそんな感じで、こういうのが自分の子どもも体験できたらいいなというふうに思いました。

はじめは、拜命してから1週間もたっていないうちの視察でしたので、行かせていただいているのだろうかという気持ちでいたんですけど、子育てをしている親として、あるいは人とし

	<p>て必要な学びをいただくために自分には必要な体験だったんだというふうに今は思っています。現地で対応して下さった方々と指導課長、ご手配いただいた事務局の皆様から感謝申し上げます。ありがとうございました。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>村田委員は初めて行っていただいたということで、電車に乗り遅れたり、乗り遅れそうになったり、いろいろ先行きに不安を感じたところもあったかもしれませんが、充実した視察になったと思っただけならよかったなと思います。</p>
小屋松徹彦 委員	<p>最後のゆめの森の先生の発言の中に、教育でまちおこしをもう一回やるんだという、教育でやるんだという、そういう決意を持っていらっしゃる所に非常に感動しましたね、あの言葉は。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>ありがとうございます。 よろしいでしょうか。 他にご発言がなければ、本件は以上といたします。</p>
〔閉会〕	
遠藤洋路 教育長	<p>本日の会議日程は全て終了いたしました。これで、令和5年11月定例教育委員会会議を閉会いたします。</p>